

平成 29 年産水稻の 10 a 当たり平年収量 に係る生産事情（都道府県別）

大臣官房統計部

平成 2 9 年 3 月 1 5 日

農林水産省

平成29年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
北海道	○ 「きらら397」等が減少傾向、「ななつぼし」、「ゆめぴりか」、「ふっくりんこ」等が増加傾向にある。	○ 収量・品質の安定に向け、以下の指導が行われている。 ・ 育苗管理の徹底 ・ 深水管理とそれを可能とする畦畔整備 ・ 防風対策等の栽培環境整備 ・ 適正施肥
青森	○ 「つがるロマン」及び「まっしぐら」を中心とする品種構成で、近年、「つがるロマン」が減少傾向、「まっしぐら」が増加傾向にある。 また、県では新品種「青天の霹靂」のブランド米評価確立を目標とし、栽培・出荷基準等要件を設定している。	○ 良食味・高品質米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適地・適品種の作付誘導 ・ 適正な肥培管理や水管理 ・ 適期移植 ・ 土作りの推進と適正な施肥
岩手	○ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 県では「ひとめぼれ」、「あきたこまち」からオリジナル品種「銀河のしずく」及び「金色の風」に計画的に転換を図ることとしている。	○ 良質・良食味米の安定生産及び低温障害回避のため、適期移植の指導が行われている。 ○ 有機物による土作りや追肥の適正実施の指導が行われている。
宮城	○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、「つや姫」が増加傾向となっている。	○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 作型の改善（出穂期を遅らせる作型） ・ 土づくりの推進と適正な施肥 ・ 適正な水管理と病害虫防除等
秋田	○ 「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米の生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの推進と栽植密度の適正化 ・ 適正な水管理と雑草防除の徹底 ・ 適正な施肥管理と適期刈取り等
山形	○ 「はえぬき」、「つや姫」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、「つや姫」が増加傾向にある。	○ 気象変動に対応した品質向上技術（水管理、適期刈取り）の指導 ○ 土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等の指導が行われている。
福島	○ 「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年「天のつぶ」が増加傾向となっている。	○ 土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり等の指導が行われている。
茨城	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっており、県では、オリジナル品種「ふくまる」の拡大を推奨している。	○ 良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適切な中干しによる茎数管理 ・ 適期収穫と適正乾燥・調製
栃木	○ 「コシヒカリ」及び「あさひの夢」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 移植時期の分散化 ・ 生育診断に基づく適正な肥培管理
群馬	○ 「あさひの夢」、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ゆめまつり」を中心とする品種構成で、近年、「ゴロピカリ」が減少し、「ゆめまつり」が増加傾向にある。	○ 夏場の高温対策として、高温登熟の回避や高温に強い稲体づくりなどの徹底等の指導が行われている。 ・ 適期移植と水管理 ・ 土づくりの推進と適期、適量施肥 ・ 早期落水の防止

平成29年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
埼玉	○ 「コシヒカリ」、「彩のかがやき」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、「キヌヒカリ」が減少傾向、「彩のきずな」が増加傾向にある。	○ 品質・食味向上に向け、栽培管理技術の徹底及び栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理の指導が行われている。 ○ 夏場の高温対策として、水管理の徹底、栄養診断に基づいた施肥の実施及び適期収穫の指導が行われている。
千葉	○ 「コシヒカリ」、「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 土作りの推進と適正な施肥・水管理の徹底 ○ 低コスト・高生産性を実現するため、水田の大区画化等ほ場整備を推進
東京	○ 「キヌヒカリ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、施肥の指導が行われている。
神奈川	○ 「キヌヒカリ」及び「さとじまん」を中心とする品種構成であるが、近年、「キヌヒカリ」及び「さとじまん」が減少傾向、「はるみ」が増加傾向にある。	○ 良質・良食味米の生産に向け、適期施肥等の指導が行われている。
新潟	○ 「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少傾向にある。 また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。	○ 良質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりによる気象変動に強い稲づくり ・ 適期・適切な中干しの徹底 ・ 適正な穂肥、水管理
富山	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっており、近年「コシヒカリ」が減少傾向、「てんたかく」及び「てんこもり」が増加傾向にある。	○ 土壌診断に基づく土づくり ○ 高温登熟を回避するため、以下の指導が行われている。 ・ 「コシヒカリ」の適期移植の実施 コシヒカリの5月15日を中心とした田植えや直播栽培の拡大。栽植密度原則70株/3.3㎡の確保や植付深さ3cmの徹底と初期生育の促進。 ・ 適期・適切な中干しの徹底 ・ 肥料の適期・適量施肥
石川	○ 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正穂数の確保 ・ 肥料の適期・適量施肥 ・ 適期収穫
福井	○ 「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」が減少傾向、「あきさかり」が増加傾向にある。	○ 土づくりと適切な水管理の徹底 ○ 高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。
山梨	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年「あさひの夢」が減少傾向、「ヒノヒカリ」が増加傾向にある。	○ 高温による品質低下防止のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期は種、適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 適期収穫
長野	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 県のオリジナル品種として、「風さやか」の導入を推進している。	○ 食味向上に向けた適量施肥 ○ 高温登熟障害（胴割米、白未熟粒）防止のための適切な水管理 ○ コスト削減のための疎植栽培等の指導が行われている。
岐阜	○ 「ハツシモ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 温暖化傾向に対応するため以下の指導が行われている。 ・ 疎植栽培の普及 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期収穫

平成29年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
静岡県	○ 「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「キヌヒカリ」が減少傾向、「きぬむすめ」が増加傾向にある。 ※「あいちのかおりSBL」（中生種）は縞葉枯病抵抗性品種である。	○ 売れる米づくり及びコスト削減のため、以下の指導が行われている。 ・ 穂肥の適期適量施肥 ・ 適期防除 ・ 適期刈取り
愛知県	○ 「あいちのかおりSBL」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向けて、施肥改善と基本技術の励行 ○ 過剰な生育を抑制するため、適正な栽植密度の確保等の指導が行われている。
三重県	○ 「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 白未熟粒対策のため、品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。
滋賀県	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「日本晴」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」が減少傾向となっている。 「みずかがみ」を増加する計画である。	○ 良質米生産に向け、適正な栽植密度・適期植え、中干し、適正な施肥、登熟期水管理の徹底等を組合わせて指導している。
京都府	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 緩効性肥料の施用 ・ 適期移植
大阪府	○ 「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種別、地域別に適期移植、合理的施肥等の指導が行われている。
兵庫県	○ 「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成であるが、近年「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適量施肥
奈良県	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上といもち病回避のため、減肥栽培の指導が行われている。
和歌山県	○ 「キヌヒカリ」、「コシヒカリ」、「イクヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適量施肥 ・ 適正な水管理
鳥取県	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの徹底 ・ 施肥の改善 ・ 適正な水管理 ・ 適期の病虫害防除等
島根県	○ 「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「つや姫」が増加傾向にある。	○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健苗の育成 ・ 地域別・品種別適期移植 ・ 適正な肥培管理

平成29年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
岡山	○ 「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。	○ 生育状況に応じた施肥管理 ○ 高温下での登熟回避のための適期移植 ○ 地域や品種に適合した肥料選定等の指導が行われている。
広島	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」及び「あきろまん」を中心とする品種構成であるが、近年、「ヒノヒカリ」が減少傾向し、「恋の予感」及び「あきさかり」が増加傾向にある。	○ 肥培管理、水管理等基本管理技術の高位平準化により外観品質向上を目指している。 ○ 需要動向を踏まえた売れる米作りに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。
山口	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 品種特性に応じた栽植密度の確保 ○ 中干し等水管理の徹底 ○ 気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている
徳島	○ 「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 食味の向上や倒伏による品質低下防止のため、適期・適量施肥等の指導が行われている。
香川	○ 「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」及び「おいでまい」を中心とする品種構成となっているが、近年「ヒノヒカリ」が減少傾向、「おいでまい」が増加傾向となっている。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な水管理 ・ 適期移植、株間の広角化 ・ 適量施肥
愛媛	○ 「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適正な水管理
高知	○ 「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年「にこまる」が増加傾向にある。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期防除 ・ 収穫前の水管理の徹底（早期栽培）、適期移植（移植時期を遅らせる）（普通期栽培）
福岡	○ 「ヒノヒカリ」、「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。 なお、県では今後、新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 中干し・間断灌水・落水時期の適正化 ・ 土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥
佐賀	○ 「夢しずく」、「ヒヨクモチ」、「さびより」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 品種特性に応じた移植時期の徹底 ・ 生育ステージに応じた施肥管理、水管理
長崎	○ 「ヒノヒカリ」、「にこまる」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質に加え、食味に重点をおいた栽培指導（適正な肥培管理等）
熊本	○ 「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 高温時の間断灌水 ・ 病虫害の適期防除 ・ 土壌改良資材の投入

平成29年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
大 分	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向けた移植時期の適正化
宮 崎	○ 「夏の笑み」及び「み系358」への作付誘導が進められているものの、「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 適正な栽植密度の確保 ○ 移植時期の後進化 ○ 土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。
鹿 児 島	○ 「イクヒカリ」及び「あきほなみ」への作付誘導が進められているものの、「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な栽植密度の確保、適期移植 ・ 適正な施肥、水管理
沖 縄	○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 肥培管理・防除等の指導